

花王の事業は、製品のライフサイクル全般にわたって、地球上のさまざまな生態系、生物の多様性をもたらす豊かな恵みによって支えられています。

世界共通の喫緊の課題のひとつである生物多様性の劣化を防ぐために花王が貢献できる活動として、持続可能な原材料調達取り組みや、限られた原材料を有効に活用するための新しい技術開発等を今後も精力的に推進していきます。また、事業活動による生物多様性への影響を低減するとともに、事業拠点のある地域の生物多様性の向上につながる社会活動も推進していきます。

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

2019年5月、IPBES※は100万種を超える生物たちが絶滅の危機に瀕していることなどを警告する報告書を発表しました。また、2010年に名古屋市で開催されたCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)で採択された、生物多様性の「戦略計画2011-2020」の個別目標である「愛知目標」で掲げられた目標の多くは達成されない可能性が指摘されており、強い危機感を持って生物多様性の保全に真摯に取り組む必要性を私たちは改めて認識しています。

アブラヤシの実から採取されるパーム油は、世界中の多くの食料品や日用品に使用される植物油であり、花王もまたその恩恵を受けている企業の一つです。しかし、アブラヤシ生産地における森林破壊とそれに伴う生物多様性の消失、現地で暮らす住民や農園労働者の人権侵害等、さまざまな深刻な問題が発生しています。

パーム油の問題も含め、地球上の至る所で発生している生物多様性劣化の問題の多くは私たちの消費活動、経済活動と密接に関係していますが、このことがあまり認知されていないこともまた大きな問題です。私たち一人ひとりが

生物多様性の問題を認識し、これを解決する方法を考えていかなければなりません。「愛知目標」の最重要目標ともいえる「生物多様性の主流化」を推進することが極めて重要であると認識しています。

※ IPBES
生物多様性および生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム。

花王が提供する価値

IPBESは生物多様性の目標を達成するためには“経済・社会・政治・科学技術における横断的な社会変容(transformative change)”が必要だとしています。花王はESG経営において掲げた各方針、目標、そして社会課題解決型のイノベーション技術を、生物多様性の劣化防止・回復、持続可能な未来社会の実現につなげるために、さまざまな活動を推進していきます。

花王は生物多様性保全に対し、以下の観点から貢献していきます。

生物多様性の恵みが持続する社会形成

花王は、主要原材料であるパーム油や紙・パルプに関して、原産地の森林破壊ゼロの確認やトレーサビリティの確保等

に関する2020年目標を掲げており、その達成に向けて、森林破壊リスクのマッピングやハイリスクと判断された工場の調査などの具体的な活動を推進しています。森林破壊や人権侵害等のない持続可能な原材料の生産、調達体制を確立し、すべてのステークホルダーに対して生物多様性の恵みが永続的に得られる社会の形成に貢献していきたいと考えています。

生物多様性への影響が少ない原材料の開発・活用

花王は、生物多様性への影響が少ない原材料の開発・活用を推進しています。

パーム油は花王の製品の多くに使用されていますが、グローバル規模での人口増加によって今後需要がますます高まることが予測されており、森林破壊や原材料不足が懸念されています。そこで花王はパーム油の代替として、天然系でかつ非可食系の油脂源を利用する技術開発を継続しています。これまで活用が難しかった油脂原料を界面活性剤として活用できる「バイオIOS」や、高収率で獲得できる微細藻類を活用した油脂生産技術開発などを行なっています。

生物多様性の主流化

認証材の積極的な活用、他社との協働として「持続可能なパーム油のための日本ネットワーク (JaSPON)」での持続可能なパーム油の調達・消費の促進、そのほか、拠点の緑地保全活動や社外の生物多様性保全活動への社員参画促進など、多様な活動を推進して生物多様性の主流化に寄与しています。

「2030年のありたい姿」の実現に関わるリスク

今後のグローバル規模での人口増加や経済の発展は、私たちが必要とする主要な原材料であるパーム油や紙・パルプの需要のさらなる増加をもたらすことが考えられます。一方で、生物多様性や人権侵害等の諸問題に配慮した持続可能な原材料の調達には付加的なコストが発生します。しかし、その調達において持続可能性への配慮がなされなければ、将来の長きにわたっての調達ができなくなり、事業存続が困難になる可能性が考えられます。また、森林破壊や人権侵害などの現地の深刻な問題に対処した持続可能な原材料調達が行なわれない場合、企業のレピュテーションが著しく低下し、社会からの信頼が得られず、事業存続が困難になるリスクが想定されます。

「2030年のありたい姿」の実現に関わる機会

花王は2011年に「生物多様性保全の基本方針」を定め、持続可能な原材料調達や生物多様性保全に貢献する新しい技術開発等に取り組んできました。

2014年に改訂した「原材料調達ガイドライン」では、パーム油や紙・パルプの原産地における森林破壊ゼロの確認を進めること等を目標に定め、将来にわたる持続的な原材料調達を実現するための具体的な活動を推進することにより、事業継続の可能性を高めています。

花王が新たに開発した界面活性剤「バイオIOS」は、グローバル規模での人口増加に伴い懸念される原材料不足等の諸問題を解消する、まったく新しい技術として用途の拡大が期待できます。

貢献するSDGs



方針

2010年、花王では生物多様性との関わりが深いと考えられる社内11部門(当時)を対象に「事業活動の生物多様性に関わるリスク分析」を実施し、そこで抽出したリスクや課題を踏まえて、2011年に「生物多様性保全の基本方針」を策定しました。①事業との関わり方の把握、②影響の低減、③独自の技術開発、④国際的な取り決めの遵守、⑤地域生態系に配慮した事業活動、⑥社員の意識向上、⑦社外関係者との連携の計7つの方針を掲げており、毎年レビューを行っています。



- 生物多様性保全の基本方針
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/biodiversity-basic-policy.pdf
- 生物多様性保全の行動指針
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/biodiversity-action-policy.pdf
- 生物多様性保全の活動事例
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/eco_activities_03_04_02_001.pdf

教育と浸透

教育

「生物多様性保全の基本方針」策定後に日本花王グループの全社員を対象に実施したeラーニングおよび新人を対象に毎年行なっている環境教育等により、生物多様性についての社員への基本的な周知はできていると考えています。海外の社員に対しては、毎年開催しているグローバルRCミーティング等を通じて情報共有や啓発等を都度行なっています。

啓発

花王では、各拠点において生物多様性に配慮した緑地保全活動を推進しており、社員が参加可能なイベントも用意しています。また、外部の生物多様性保全プログラムへの社員のボランティア参加を奨励しています。社員には、これらの活動への積極的な参画を通じて、生物多様性への理解を深めてほしいと考えています。

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

持続可能な原材料調達の推進



→思いやりのある選択を社会のために>責任ある原材料調達
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2020-all.pdf#page=72

各国・地域に応じた生態系・生物多様性の保全活動

花王は世界中に事業拠点を有しています。生物多様性保全についての基本的な方針は本社で定めていますが、生物多様性の状況や考え方は国や地域で異なるのが現状です。生物多様性保全活動を効果的に推進するためには、それぞれの国、地域において、行政、NGO／NPO、有識者など、関係するさまざまなステークホルダーと積極的に意見交換する機会を設けることが有効であると考えており、各国・地域の担当者に推奨しています。

体制

RC推進部が推進しているレスポンシブル・ケア(RC)活動の一つである「環境保全」において、生物多様性保全を活動項目の一つに定めています。生物多様性に関する方針、目標、計画を定め、活動の進捗とあわせてRC推進体制で管理しています。活動の進捗については、年2回開催のRC推進委員会および年1回開催のグローバルRCミーティング(いずれも担当役員が参加)において、情報共有を適宜行なっています。

中長期目標と実績

2020年中期目標

花王は、2009年に発表した「環境宣言」の2020年中期目標のひとつとして、「原材料の調達などの面で、生物多様性保全に努めます」という生物多様性に関する目標を初めて掲げました。

その後、「原材料調達ガイドライン」を策定し、主要原材料であるパーム油や紙・パルプについての2020年目標として、森林破壊ゼロやトレーサビリティの確保等に関する詳細な活動目標を掲げて、その達成に向けた活動を推進しています。

中長期目標の達成により期待できること

事業インパクト

持続可能な原材料の調達には少なからず付加的なコストが発生しますが、これは私たちの事業を持続可能なものにするために必要不可欠な投資であり、社会的責任であると捉えています。結果、花王のレピュテーションは大きく向上しており、その財務的な効果を測ることは困難ですが、財務面に直接的・間接的なメリットが生じていると想定しています。

社会的インパクト

持続可能な原材料調達に関する2020年目標の達成に向けてのさまざまなプロセスにより、原材料調達地における森林環境の維持・回復や地域社会の人権の尊重などにつながり、将来の持続可能社会の実現に向けて前進できると期待しています。

2020年目標

生物多様性に関する年次目標は、1年間の活動単位でPDCA管理しているRC目標の中で毎年定め、進捗管理しています。2020年目標は以下の通りです。

1. 持続可能な原材料調達の推進

パーム油、紙・パルプを対象に、2020年までに100%持続可能な調達を行ないます。

2. 地域の生物多様性に配慮した事業活動・社会活動の推進

2018～2019年にかけて実施したグループ全生産拠点の生物多様性評価の結果を受けて、各拠点で実施可能な生物多様性保全活動を計画し、推進します。

3. コピー用紙削減

全社員が共通で取り組むことのできる活動として、コピー用紙の削減活動を日本花王グループから開始しています。2020年目標は、10%削減(一人当たりの印刷枚数:2017年比)です。

4. グリーン購入の推進

環境負荷ができるだけ小さいものを優先して購入する「グリーン購入」を推進しています。グリーン購入法を受けて、以前から活動を推進している日本における2020年目標は、グリーン購入率100%です。

2019年の実績

実績

1. 持続可能な原材料調達の推進

2020年目標の達成に向けて、原産地の森林破壊ゼロの確認やトレーサビリティの確認などを推進しました。

2. 地域の生物多様性に配慮した事業活動・社会活動の推進

新たに花王に併合した拠点を含むすべての生産拠点における生物多様性評価を完了しました。

3. コピー用紙削減

一人当たりの印刷枚数は2017年比で15.7%削減となり、2020年目標をすでに達成しています。

4. グリーン購入の推進

日本におけるグリーン購入率は90.2%でした。

実績に対する考察

グローバル会議や現地訪問等での各国・地域担当者との意見交換を通じて、社内における生物多様性に対する意識の高まりを実感しています。

具体的な取り組み

事業と生物多様性との関わりの把握

2013年に評価を完了したエコロジカル・フットプリントでは、花王の事業活動が及ぼす環境負荷は、二酸化炭素吸収地、油糧植物生育のための耕作地や牧草地、パルプや紙の生育のための森林、界面活性剤が影響を与える漁場などが大半を占めていることを確認しました。



→企業活動のエコロジカル・フットプリント
www.jstage.jst.go.jp/article/ilcaj/2011/0/2011_0_164/_pdf

さまざまな環境影響を統合して数値化できるLIME2(第2版日本版被害算定型影響評価手法)を活用して、花王の製品がさまざまな環境側面に及ぼす影響を包括的に評価しています。花王では、主要な35製品分類について環境影響評価を実施し、環境側面のバランスについて把握し、製品開発に役立てています。



→コンパクト粉末衣料用洗剤のLIME2による環境影響の変遷
www.jstage.jst.go.jp/article/lca/11/3/11_300/_pdf/char/ja

事業が生物多様性に与える影響の低減

花王の事業活動が生物多様性に与えるさまざまな影響を低減するために、以下の活動を継続的にこなっています。

- ・原材料使用量の削減および持続的に調達可能な環境負荷の少ない原材料への切り替え



→思いやりのある選択を社会のために>責任ある原材料調達
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2020-all.pdf#page=72

- ・事業活動に伴うCO₂排出量の削減



→よりすこやかな地球のために>脱炭素
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2020-all.pdf#page=83

- ・水資源の使用量削減および影響の低減



→よりすこやかな地球のために>水保全
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2020-all.pdf#page=117

生物多様性の恵みを大切に活用するための技術開発

花王は長年にわたり、アブラヤシの実などから採取できる炭素数が12~14の油脂原料を用いて工業用高級アルコールを生産し、さまざまな家庭用製品の原料として使ってきました。しかし、長年の界面科学研究の結果、これまでは活用が難しかった炭素数16~18の油脂原料が、「バイオIOS」という新しい界面活性剤として有効に活用できるようになりました。「バイオIOS」は、アブラヤシの実からパーム油を採取する際の搾りカスを原料としており、衣料用濃縮液体洗剤「アタックZERO(ゼロ)」ですでに実用化されています。

さらに、原材料が食品用途と競合せず、環境負荷が少ない藻類をパーム油の代替とする研究も進めています。

これまで用途が限られていた原料を洗剤の新たな主原料にできたこと、食品用途と競合しない油を活用する可能性を広げたことは、「生物の多様性の持続可能な利用」への貢献につながるものと考えています。



→思いやりのある選択を社会のために>暮らしを変える製品イノベーション
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2020-all.pdf#page=68

国際的な取り決めの遵守

花王は、生物多様性条約、生物多様性条約締約国会議等で決定された生物多様性に関する国際的な取り決めおよび関連する各国・地域の国内法を遵守しつつ、事業活動を進めています。

また、花王は、2014年、「原材料調達ガイドライン」の中で掲げた調達目標において日本でいち早く「森林破壊ゼロ」の支持を表明し、また、同年9月にニューヨークで開催された国連気候変動サミットで発表された「森林に関するニューヨーク宣言」にも署名しました。

2020年は「愛知目標」の達成目標年です。その達成に向けて、花王として貢献できる活動を積極的に進めています。たとえば、目標の1番目に掲げられた「生物多様性の主流化」については、以下のような活動を行なっています。

商品

花王はFSC認証材の導入を積極的に進めています。2016年に日本で初めてFSC認証を受けた段ボールを導入、2017年は衣料用粉末洗剤の容器にFSC認証紙を導入しました。2018年は、「FSC認証材の調達宣言」を日本企業6社・団体と共同で発表しました。

他社との協働

花王は国内における持続可能なパーム油の普及に向けた活動も推進しています。2019年に発足した「持続可能なパーム油のための日本ネットワーク(JaSPON)」のメンバーと

して、持続可能なパーム油の調達・消費の促進を他社と協働で進めています。

生物多様性保全活動

社内では、工場を有するグループ全拠点において、生物多様性に配慮した緑地保全活動を、社外では、地域の緑地保全を推進する団体や生物多様性の教育に携わる学校の先生を支援する活動などを行なっています。



「愛知目標」への花王の活動貢献内容については、下記で報告しています。

→生物多様性保全の活動事例

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/eco_activities_03_04_02_001.pdf

地域の生態系に配慮した事業活動

グローバル共通の生物多様性評価基準に基づく活動推進

花王では、事業を展開しているグローバル各拠点において、地域の生物多様性に配慮した活動がどの程度行なわれているか評価するための生物多様性評価基準を2017年に導入し、2018年から2019年にかけて、新たに花王に併合した拠点を含むすべての生産拠点における評価を実施しました。各拠点では今後3年間の活動計画・目標も立案し、活動を推進しています。今後、本評価基準に基づき、各拠点の活動進捗を確認し、グローバルで活動を推進していきたいと考えています。

本評価を導入した主な目的は、現状を把握した上で、明確な目的意識を持って各拠点あるいは近隣の緑地等における生物多様性保全に積極的に取り組んでもらうことにより、各拠点が恩恵を受けている地域生態系の生物多様性保全に貢献することです。さらに、本活動を通じて、社員の生物多様性への意識が高まり、地域住民など関係する多くの皆さまにも私たちの思いが伝わり、活動の輪が大きく広がっていく「生物多様性の主流化」につなげていければと考えています。

生物多様性 304-1,304-2,304-3

KSA 生物多様性アセスメントを実施

花王スペシャルティーズアメリカズ(KSA)は、アメリカ合衆国南東部のノースカロライナ州ハイポイント市にある、花王では最大の森林面積を有する会社です。場内には針葉樹と広葉樹の多様な樹木で構成される混交林が広がり、ノースカロライナ州が絶滅のおそれのある種に指定したモリツグミ等の希少な野鳥をはじめとするさまざまな生物が生息しています。混交林の中にある貯水池の周囲には非舗装の自然遊歩道を整備しており、水辺でガンの親子が暮らしている様子などを見ることができます。

2019年、KSAでは、生物多様性に関するアセスメントとして、自社敷地を含む地域特性(地質/地形/水文循環/生態系等)、敷地内の植生(樹種/草本)、侵入外来種、生物の生息地の現状および今後の可能性、生物モニタリング等についての検証を実施し、詳細なレポートにまとめました。また、敷地内緑地を生態学的に区分けしたマップなどを作成しました。

本アセスメントの結果を受けて、KSAでは今後の生物多様性保全活動について検討を進めています。また、社員が参画する生物多様性保全の取り組みとして、落ち葉や枯れ枝等の堆肥化についての講習会、ハイポイント市の専門家の指導による森林に生息する生き物の勉強会を兼ねた自然ウォーク、林縁における苗木の植樹活動等を新たに実施しました。

KSAの敷地内に広がる混交林



貯水池



自然遊歩道

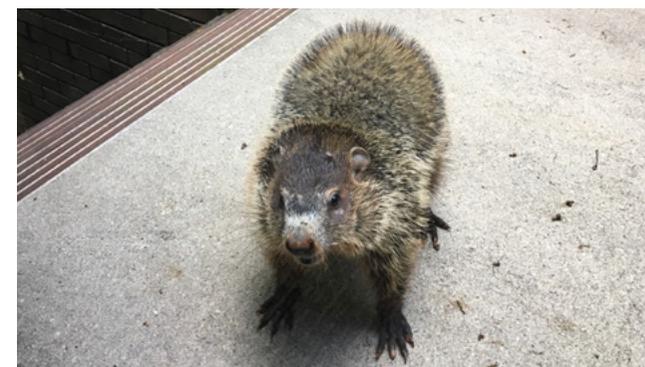


堆肥化についての講習会

KSAの敷地内で見られるさまざまな生き物



ガンの親子



ウッドチャック

生物多様性 304-1,304-2,304-3

川崎工場 生物多様性調査とウマノズクサ保全活動

川崎工場は2018年、一般社団法人 いきもの共生事業推進協議会 (ABINC) の「いきもの共生事業所® 認証」を取得しました。認証取得後も、主要緑地である西緑地を中心に生物多様性保全活動を推進しています。

2018年から2019年にかけて、春夏秋冬のそれぞれの季節において生物が比較的多く観測される時期を選び、環境調査等を専門とする会社に委託して生物多様性調査を4回実施しました。その結果、73科237種の植物、7目15科21種の鳥類、10目59科100種の昆虫類が確認されました。鳥類については4種について、場内で繁殖活動を行なっていることが確認されました。

前回の調査で生息が確認された、ジャコウアゲハの幼虫の食草であるウマノズクサは、西緑地以外の点在する場内緑地において計121株が確認されました。また、場内の複数の草地でジャコウアゲハの幼虫が確認されたことから、本工場が川崎市臨海部におけるジャコウアゲハの繁殖拠点のひとつになっていることを改めて認識しました。今後、保全活動とあわせて、ウマノズクサやジャコウアゲハの個体数の推移のモニタリングも進める予定です。



蛹から羽化したジャコウアゲハ

川崎工場・鹿島工場

JBIB「いきものDays」への参加と社員啓発活動

「いきものDays」は、愛知目標の重要な項目である「生物多様性の主流化」をめざして、JBIB参加企業の自社緑地あるいは関連する緑地において、生物モニタリングや植林活動を3～6月の期間に一斉に実施するJBIB主催のイベントです。2019年、花王からは川崎工場、鹿島工場が参加しました。



→JBIB「いきものDays」

jbib.org/news/1970/

※生物多様性アクション大賞2019つたえよう部門入賞

川崎工場

川崎工場は、6月に新入社員を対象に生物モニタリングを開催し、計25人が参加しました。外部講師による生物多様性の講義後、身近な緑地に棲む生き物の観察やウマノズクサの保全活動を体験しました。また、8月に開催した毎年恒例の納涼祭の日に、従業員の親子を対象に生き物観察会を開催し、ゴマダラカミキリ等の生き物を見つけた子どもたちは大喜びしていました。当日は親子での野鳥の巣箱作りや緑地で採取した葉を用いた版画作りも行ない、イベントは大盛況でした。

川崎工場の生物多様性事務局では、上記の生物多様性に関連した活動やイベントの企画、開催を担当するとともに、写真を豊富に添えた活動報告を社員に対して定期的に発信しており、生物多様性の啓発に努めています。



従業員の親子が参加した生き物観察会

鹿島工場

鹿島工場は、5月に主に新入社員を対象に生物モニタリングを開催し、計51人が参加しました。イベント当日、新入社員は入社・在籍記念として、工場設立以来約40年にわたって続けられている、社員の森への“自分の木”の植樹も行ないました。

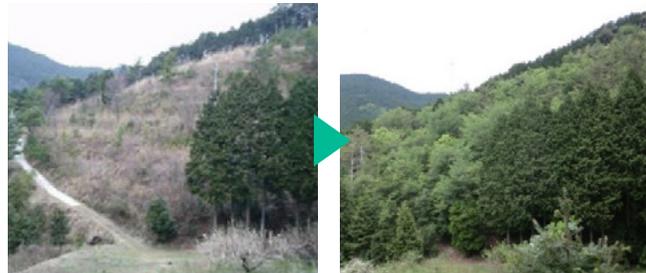
生物多様性 304-1,304-2,304-3

和歌山工場 「企業の森」における遺伝子の多様性を守る活動

「企業の森」は、CSR、社会・環境貢献活動、地域との交流活動の一環として、企業などが森林環境保全に取り組む事業の総称です。和歌山県では全国に先駆けて2002年から活動を開始し、現在82団体が県内の94カ所で活動を行なっています。

花王の森 紀美野

和歌山工場は2007年、工業用水として利用している紀ノ川の水源地である紀美野町のみさと天文台近くの山林0.7haを、「花王の森 紀美野」として借り受け、クヌギやコナラなど9種700本を植樹しました。以降、約10年間にわたり、社員と家族による下草刈りなどの保全活動を毎年継続してきた結果、樹木が大きく育ち森が再生したことを確認できました。



活動前

現在



水源地の清流



社員と家族による下草刈り

花王の森 おいし

2017年には、ススキの群生で有名な生石高原（県立自然公園）の近くに、新たな活動地「花王の森 おいし」0.8haを借り受けました。

従来は森林組合にお願いする“地拵え（じごしらえ：造林や天然更新のため、伐採跡地を整備すること）”の段階から自分たちで実施することを申し出て、のべ106人の社員が、放棄されウツギやカズラ等がはびこる密林に分け入り、ノコギリを使って駆除作業を実施しました。

さらに、地域の遺伝子の多様性を守る目的から、この地に自生する苗木を使った森の再生計画を企画、検討しました。和歌山県企業の森事業で初の取り組みです。地権者のご協力により、ウリハダカエデ、カヤ、ハナイカダなどの苗木を採取させていただき、鉢植えにし、猛暑や台風の影響に負けることなく、複数の社員宅で大事に育てました。2018年11月には、社員と家族が集い、地拵えを終えたエリ

アに、社員宅で育てた苗木にモミジ、コナラ、ヤマザクラなどを加えた8種67本の苗木を植えました。社員の子もたちが描いた、活動地付近に生息する生き物のイラスト入り看板もお目見えしました。

苗木は防獣柵に守られ現在も順調に育っています。当活動地は、苗木の植樹を行なった「自生種」、「針葉樹」、「針広混交林」の3つの保全ゾーンに分けて、それぞれのゾーンの特性に合った保全を行なっています。適宜植樹もしながら、社員と家族みんなでこの森を大切に育てていきます。



社員宅での苗木への水やり



家族で植樹



子どもたちによるイラスト入り看板

花王(台湾) 工場立地エリアにおける植樹および保全活動

2019年4月、工場の立地する新竹県の政府所有の裸地に確保した花王(台湾)の植樹エリアにおいて、誕生祭も兼ねて、花王社員とその家族103名を含む計130名により、草木の苗計700本の植樹活動が行なわれました。当日は、昨年植樹した樹木の保護、害虫防除、土壌や水の保全なども同時に実施しました。当日参加した社員は、一緒に参加したNGOの専門家に植樹した樹木などについて学ぶことで、生物多様性に関する知識を大いに高めることができました。

花王(台湾)は、予定していた3カ年の植樹計画を前倒しで達成しました。この森林の育成が花王のESG活動とSDGsに貢献できることを期待しています。



花王社員とその家族が植樹

東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト

東日本大震災で被災した地域の生物を調査・モニタリングする「東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト」(主催:認定NPO法人アースウォッチ・ジャパン)に、2019年は花王社員10名が参加しました。この調査で得られたデータは、被災地域の生態系や希少種の保全、環境に配慮した復興計画のために役立てられています。



→花王社員が「東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト」に参加

www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/topics/society-20190820-001/

他団体との連携

生物多様性保全の取り組みについて真剣に考え、具体的な活動を実践する企業の集まりである一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ(Japan Business Initiative for Biodiversity:JBIB)に、花王は2008年の発足当初から参加し、参加企業とともにこれまで歩んできました。テーマごとに複数のワーキンググループに分かれ、業種を超えたさまざまな企業の方たちと、企業としてどのような形で生物多様性保全へ貢献ができるのかについて毎月議論を行っており、またJBIB「いきものDays」の開催等、多様な活動を展開しています。

ほかにも、花王は、公共財団法人都市緑化機構(花王・みんなの森づくり活動)、公共財団法人オイスカ(タイ北部“FURUSATO”環境保全プロジェクト)、認定NPO法人アースウォッチ・ジャパン(花王・教員フェローシップ、東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト)など、さまざまなステークホルダーとの協働により、生物多様性保全につながる活動を推進しています。



→花王・教員フェローシップ、タイ北部“FURUSATO”環境保全プロジェクト、花王・みんなの森づくり活動について詳しくは「社会貢献活動/具体的な取り組み:よりすこやかな地球のために」

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sus-db-2020-all.pdf#page=83